

地域アカデミア Web 講座

「箱根駅伝の誕生とスポーツ人物伝」講義資料

第 1 回 箱根駅伝の歴史的意義 有吉正博



1. 箱根駅伝 100 回大会を終えて

○予選会（2023 年 10 月）

全国に門戸を開き 57 大学が出場。

上位 13 大学が本大会出場。

○記念シンポジウム開催

京都（4 月）駅伝発祥の地

熊本（8 月）金栗四三の生誕地

東京（11 月）0B、指導者が語り合う



○100 回大会 2024 年 1 月 2-3 日

① 青学大 10 時間 41 分 25 秒 ◎

② 駒大 10 時間 48 分 00 秒

③ 城西大 10 時間 52 分 26 秒

④ 東洋大 10 時間 52 分 47 秒

⑤ 國學院 10 時間 55 分 27 秒

⑥ 法大 10 時間 56 分 35 秒

⑦ 早大 10 時間 56 分 40 秒

⑧ 創価大 10 時間 57 分 21 秒

⑨ 帝京大 10 時間 59 分 22 秒

⑩ 大東大 11 時間 00 分 42 秒

⑪ 東海大 11 時間 01 分 52 秒

⑫ 国士大 11 時間 01 分 52 秒



沿道観客数 98 万人

学生補助員 2000 人

審判員 1000 人

警察官 2000 人



2. 箱根駅伝の歴史と伝統

第1回箱根駅伝（四大校駅伝）

優勝 高等師範学校

（第7回アントワープ五輪出場）

10区 茂木善作（高師）マラソン

5区 大浦留市（高師）5千、1万

5区 三浦弥平（早大）マラソン

金栗四三（審判長）マラソン



麻生武治

第1回（9区）、第2回（5区）、第3回（5区）

河野一郎

第1回（7区）、第2回（4区）、第3回（7区）、第4回（7区）

河野謙三

第2回（1区）、第3回（8区）、第4回（5区）

1923年1月6日

（9月1日関東大震災）



昭和期の箱根駅伝

○選手としての箱根駅伝

(43 回大会から 46 回大会)

43 回大会 9 区 9 位でタスキを 10 区油野先輩 (3 年生) へ総合 9 位。シード権獲得。

44 回大会 5 区を走るために、箱根合宿等を重ねる。「元箱根のひらい商店」「箱根町のうちほら」にお世話になる。家庭教師等。

45 回、46 回 2 区



昭和期の箱根駅伝

○指導者としての箱根駅伝

東海大学初出場 (49 回大会 1973 年)

東海大学 6 位 (55 回大会 1977 年)

東京学芸大学 (60 回大会 1984 年)

箱根駅伝が認定された世界陸連ヘリテージプラーク
(陸上世界遺産) 贈呈式が執り行われました！



○箱根駅伝が陸上競技の世界遺産に認定

2019 年 5 月

世界陸上競技連盟 (WA) は大会部門のヘリテージプラークアワードとしてペンリレー (米国 1895 年) と箱根駅伝を認定した。

[Heritage Plaques honouring Japanese legends Nambu and Oda unveiled in Tokyo | World Athletics](#)

表. 箱根駅伝からオリンピック出場者一覧

オリンピック大会	年号	人数	オリンピック大会	年号	人数
アントワープ	1920年	4	モントリオール	1976年	2
パリ	1924年	3	モスクワ	1980年	3
アムステルダム	1928年	2	ロサンゼルス	1984年	3
ロサンゼルス	1932年	6	ソウル	1988年	4
ベルリン	1936年	9	バルセロナ	1992年	4
ヘルシンキ	1952年	5	アトランタ	1996年	4
メルボルン	1956年	3	シドニー	2000年	3
ローマ	1960年	1	アテネ	2004年	2
東京	1964年	7	北京	2008年	5
メキシコ	1968年	6	ロンドン	2012年	4
ミュンヘン	1972年	4	リオデジャネイロ	2016年	7
			東京	2021年	10
					計 101

箱根から世界へ

3. 箱根から世界へ

第1回（1920年）を走った大浦留市（高師）、茂木善作（高師）、三浦弥平（早大）は同年

第7回アントワープ五輪に出場。

第32回2020東京五輪には、箱根駅伝を走った選手が過去最多10名出場し、大迫傑選手（早大OB）がマラソン6位入賞、三浦龍司選手（順大）が3000sc7位入賞するなど活躍した。



45回大会2区

2024年第33回パリ五輪は？

図1. 箱根駅伝総合優勝記録、および最下位の記録の推移

